

01 「ひざ」や「また」の痛みに広まる人工関節治療。

治療数は一〇年前の約二倍。
年々増える人工関節治療。

関節の痛みに有効な治療法として、近年注目を浴びる人工関節治療。『倉敷リバーサイド病院』人工関節センター長の川口洋先生に、話をうかがった。

「私が医師になつた一九八九年（平成元年）頃は、人工関節といふと一般的にはまだまだ馴染みのない治療で、大きな病院でも人工関節治療を受ける人は月に数人程度でした。最近は治療を受ける人が増えて、何人かの知り合いが人工関節治療を受けたのを見て、『私も治療してほしい』と、自ら外来を訪れる人もいます。年間一〇〇人以上の人工関節治療を行なう病院や、人工関節治療を専門とする人工関節センターのある病院が、日本全国に増えています。そのいっぽうで、金属やポリエチレンなどの人工物を使うことに抵抗を感じ、治療をためらっている人

もいます。しかし実は人工物を使っている、あるいは、これから経験することになる身近な治療法なのです。たとえば、みなさん一度は歯医者に行つたことがありますか。虫歯の治療は悪くなつた歯を削つて、人工物である金属をかぶせています。また、人工レンズを使う白内障の治療は、日本全国で年間約一二〇万件が行なわれています。そのほかにも、人工血管、人工弁、ペースメーカー、ストント、コイル、人工骨、人工じん帯、人工中耳などなど、人工物による

治療でいろいろな人が恩恵を受けているのです。人工関節治療は、二〇一三年（平成二十五年）は日本全国で約十三万件。その数は一〇年前の約二倍で、年々増えています」と川口先生。

人工関節治療を受ける人が増え、その認知度は徐々に高まっています」と川口先生。

患者の治療の選択に前向きな意識の変化が。

実際どのような人がどんな気持ちで、治療を受けているのだろう



人工関節センター長 川口洋

1989年防衛医科大学校卒業。1993年から13年間、倉敷中央病院勤務を経て、2006年より倉敷リバーサイド病院へ。人工関節治療の経験数は2000件以上。



不安を取り除き、前向きな気持ちで治療に取り組めるように、模型などを使ったわかりやすい説明を受ける。

初めての屋外リハビリ。少し不安でも太陽の光を浴びて歩くと、自然と元気がわいてくるようだ。

治療後笑顔のみなさん。同じ治療を受けた者同士交友を深めて、長い付き合いになる人も。

「リハビリはがんばらなくていいのですよ。日にちで楽になりますから」と笑顔で話しかけられ、緊張でこわばる体も思わずリラックス。

か。「正座ができない人は『ひざ』の、体育座りができない人は『また』の軟骨がすり減つて、土台の骨が削れている可能性があります。痛み止めの薬や湿布などは、一時的に炎症を抑えるだけで傷んだ軟骨や骨を治す作用はありません。ヒアルロン酸の注射は、軟骨の保護や潤滑油としての役目はあっても、削れた骨の表面に軟骨を再生させる効果はありません。この場合にもっとも有効な治療法は人工関節治療です。この一〇年で人工

関節そのものの性能や耐久年数、治療の技術は大きく進歩しています。以前であれば、まだがんばれると何年も痛みを我慢して、身の回りのことが自分でできなくなり、家族に迷惑がかかる頃になつてやつと、人工関節治療を受ける決心をする人が多かつたのですが、最近はもっと早めに治療をする人が多くなりました。『仕事がきつくなつてしまけれどまだ働きたい』『ゴルフ、ダンス、旅行など好きなことを続けたい』といった希望

があり、「今後、年齢相応の健康的な生活を送れるかどうか」を考え、筋力や気力が衰える前に人工関節治療を選択する人が増えてきたのです。人工関節は病気がひどくなつて最後に受けれる治療から、元気に歩いてより長く健康的な生活を送ることをサポートする、前向きな治療へと変わりつつあります」と川口先生。

今後の人生を愉しむために、早めに専門医に相談することもひとつの中選択肢となりそうだ。



☑自分でできるひざ関節・また関節のチェック

- ひざを抱えて体育座りをすると、ひざを胸につけることができない。
- ひざが曲がらずに正座ができない。



公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷リバーサイド病院

【院長】島村淳之輔
倉敷市鶴の浦2-6-11
☎086-448-1111
<http://www.kchnet.or.jp/krh/>

【診療科目】
内科・神経内科・外科・整形外科・小児科・眼科・耳鼻咽喉科・麻酔科・放射線科・リハビリテーション科・歯科
【診療時間】
9:00~ ※受付けは8:30~11:30 ※診療科目により異なる
【休診日】日曜、祝日 ※整形外科は手術のため木曜休診

